

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 平成26年9月12日

【四半期会計期間】 第20期第1四半期(自 平成26年5月1日 至 平成26年7月31日)

【会社名】 株式会社アスカネット

【英訳名】 Asukanet Company,Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼CEO 福田 幸雄

【本店の所在の場所】 広島県広島市安佐南区祇園3丁目28番14号

【電話番号】 082-850-1200(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役CFO 功野 顕也

【最寄りの連絡場所】 広島県広島市安佐南区祇園3丁目28番14号

【電話番号】 082-850-1200(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役CFO 功野 顕也

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次	第19期 第1四半期 累計期間	第20期 第1四半期 累計期間	第19期
会計期間	自 平成25年 5月1日 至 平成25年 7月31日	自 平成26年 5月1日 至 平成26年 7月31日	自 平成25年 5月1日 至 平成26年 4月30日
売上高 (千円)	1,116,264	1,170,429	4,767,056
経常利益 (千円)	162,494	157,279	726,361
四半期(当期)純利益 (千円)	99,540	99,570	445,803
持分法を適用した 場合の投資利益 (千円)			
資本金 (千円)	490,300	490,300	490,300
発行済株式総数 (株)	4,366,000	4,366,000	4,366,000
純資産額 (千円)	3,335,635	3,660,427	3,687,653
総資産額 (千円)	3,848,010	4,235,245	4,357,454
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	23.78	23.78	106.49
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	23.72	23.51	105.51
1株当たり配当額 (円)			32.00
自己資本比率 (%)	86.7	86.3	84.5

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 当社には関連会社がありませんので、持分法を適用した場合の投資利益は記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済は、政府の景気対策や日銀の金融政策などにより企業業績が緩やかに回復し、消費税増税により懸念されておりました個人消費も底堅く推移しております。

当社は、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力サービスを主に提供するメモリアルデザインサービス事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するチャレンジングなビジネスであるパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

また、インターネットを活用したBtoC向け新規ビジネスの開発にも注力してまいりました。

このような状況のもと、既存事業での着実な成長と、新規事業への先行投資のバランスに配慮して、事業を推進してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(メモリアルデザインサービス事業)

当事業におきましては、新規顧客の確実な獲得により、遺影写真等の加工や、ビデオなどの演出ツールの作成が順調に推移し、額の売上も好調でした。一方、ハード機器の売上は買換えが想定ほど進まず、粗利の獲得も想定通り進みませんでした。

また、経費面におきましては、展示会向けの広告宣伝費や、旅費交通費が増加いたしました。

以上の結果、売上高は521,735千円（前年同四半期比102.5%）、セグメント利益は152,561千円（前年同四半期比96.9%）となりました。

(パーソナルパブリッシングサービス事業)

当事業におきましては、一般消費者向けには、各種キャンペーンの実施や、企業とのタイアップでのサービス提供などに取り組んでまいりました。プロフェッショナル写真家向けでは、地道な営業活動による契約獲得に加え、ASUKABOOKセミナーの実施や、展示会への出展により拡販を図ってまいりました。

国内プロフェッショナル写真家向け売上、一般消費者向け売上とも順調に推移し、特に新製品であるZENレイフラットやオンデマウントの販売が好調でした。

費用面では広告宣伝費や人件費などが増加したものの、生産効率の向上や減価償却費の減少により粗利率が改善しました。

以上の結果、売上高は634,421千円(前年同四半期比105.1%)、セグメント利益は127,580千円(前年同四半期比108.1%)となりました。

(エアリアルイメージング事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、平成23年3月に開始した事業であります。

当事業におきましては、空中結像を可能にする特殊なプレート(AIプレート)の試作品の販売は順調に伸ばしました。また、展示会出展の準備を進めてまいりました。

AIプレートの生産につきましては、複数の手法によって試作・技術開発を進めており、量産技術の確立に向けて注力しております。

以上の結果、売上高は14,273千円(前年同四半期比400.3%)、セグメント損失は16,030千円(前年同四半期は14,455千円の損失)となりました。

以上の結果、売上高は1,170,429千円(前年同四半期比104.9%)となり、利益面につきましては、上記しました各事業の状況に加え、新規ビジネスの研究やマーケティング等への先行費用が発生したため、経常利益は157,279千円(前年同四半期比96.8%)、四半期純利益は99,570千円(前年同四半期比100.0%)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ122,208千円減少し、4,235,245千円となりました。これは主に、商品及び製品が29,303千円増加した一方で、法人税等や配当の支払いにより現金および預金が189,401千円減少したことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ94,982千円減少し、574,818千円となりました。これは主に、未払法人税等が105,600千円、賞与引当金が55,000千円減少したことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ27,225千円減少し、3,660,427千円となりました。これは主に、四半期純利益を99,570千円計上した一方で、剰余金の配当として133,967千円計上したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題に重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期累計期間の研究開発費の総額は22,673千円であります。

なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,800,000
計	16,800,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年7月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年9月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,366,000	4,366,000	東京証券取引所 マザーズ	単元株式数は100株でありま ず。
計	4,366,000	4,366,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年5月1日～平 成26年7月31日		4,366,000		490,300		606,585

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日である平成26年4月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成26年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 179,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,184,400	41,844	
単元未満株式	2,100		
発行済株式総数	4,366,000		
総株主の議決権		41,844	

【自己株式等】

平成26年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アスカネット	広島県広島市安佐南区祇 園3丁目28番14号	179,500		179,500	4.11
計		179,500		179,500	4.11

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間(平成26年5月1日から平成26年7月31日まで)及び第1四半期累計期間(平成26年5月1日から平成26年7月31日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当第1四半期会計期間 (平成26年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,911,024	1,721,623
受取手形及び売掛金	552,595	562,996
商品及び製品	82,350	111,654
仕掛品	17,035	17,949
原材料及び貯蔵品	42,294	41,489
その他	90,495	85,027
貸倒引当金	5,329	5,036
流動資産合計	2,690,466	2,535,704
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	482,394	480,163
土地	432,702	432,702
その他（純額）	343,180	368,650
有形固定資産合計	1,258,277	1,281,515
無形固定資産	218,496	221,431
投資その他の資産	190,213	196,593
固定資産合計	1,666,987	1,699,541
資産合計	4,357,454	4,235,245
負債の部		
流動負債		
買掛金	104,686	114,973
未払法人税等	165,800	60,200
賞与引当金	112,000	57,000
その他	276,271	331,915
流動負債合計	658,758	564,089
固定負債		
退職給付引当金	8,114	8,218
その他	2,928	2,509
固定負債合計	11,042	10,728
負債合計	669,800	574,818
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	2,704,647	2,670,250
自己株式	122,635	122,635
株主資本合計	3,678,896	3,644,499
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,101	8,595
評価・換算差額等合計	3,101	8,595
新株予約権	5,654	7,332
純資産合計	3,687,653	3,660,427
負債純資産合計	4,357,454	4,235,245

(2) 【四半期損益計算書】
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年7月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年7月31日)
売上高	1,116,264	1,170,429
売上原価	543,583	568,980
売上総利益	572,680	601,449
販売費及び一般管理費	411,062	445,461
営業利益	161,618	155,988
営業外収益		
受取利息	400	399
受取配当金	339	494
受取手数料	152	169
為替差益		182
その他	110	45
営業外収益合計	1,003	1,291
営業外費用		
支払利息	14	
為替差損	111	
営業外費用合計	126	
経常利益	162,494	157,279
特別損失		
固定資産除却損	20	300
特別損失合計	20	300
税引前四半期純利益	162,474	156,979
法人税等	62,933	57,408
四半期純利益	99,540	99,570

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理)

当第1四半期累計期間 (自 平成26年5月1日 至 平成26年7月31日)
(税金費用の計算) 当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成25年7月31日)	当第1四半期累計期間 (自 平成26年5月1日 至 平成26年7月31日)
減価償却費	65,730千円	55,432千円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成25年7月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年7月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	121,407	29.00	平成25年4月30日	平成25年7月29日

- 2 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 平成26年5月1日 至 平成26年7月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年7月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	133,967	32.00	平成26年4月30日	平成26年7月28日

- 2 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成25年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス事業	パーソナル パブリッシング サービス事業	エアリアルイ メージング事 業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	508,796	603,901	3,566	1,116,264		1,116,264
セグメント間の内部売上 高又は振替高						
計	508,796	603,901	3,566	1,116,264		1,116,264
セグメント利益又は損失 ()	157,410	118,027	14,455	260,982	99,364	161,618

(注) 1 セグメント利益の調整額 99,364千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに
帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期累計期間(自 平成26年5月1日 至 平成26年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス事業	パーソナル パブリッシング サービス事業	エアリアルイ メージング事 業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	521,735	634,421	14,273	1,170,429		1,170,429
セグメント間の内部売上 高又は振替高						
計	521,735	634,421	14,273	1,170,429		1,170,429
セグメント利益又は損失 ()	152,561	127,580	16,030	264,112	108,123	155,988

(注) 1 セグメント利益の調整額 108,123千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメント
に帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年7月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年7月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額(円)	23.78	23.78
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	99,540	99,570
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	99,540	99,570
普通株式の期中平均株式数(株)	4,186,473	4,186,473
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額(円)	23.72	23.51
(算定上の基礎)		
普通株式増加数(株)	10,082	48,602
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年9月5日

株式会社アスカネット
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴 田 良 智

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉 田 秀 敏

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アスカネットの平成26年5月1日から平成27年4月30日までの第20期事業年度の第1四半期会計期間(平成26年5月1日から平成26年7月31日まで)及び第1四半期累計期間(平成26年5月1日から平成26年7月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アスカネットの平成26年7月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。